

海洋観光の施策推進に係る 課題と方向性

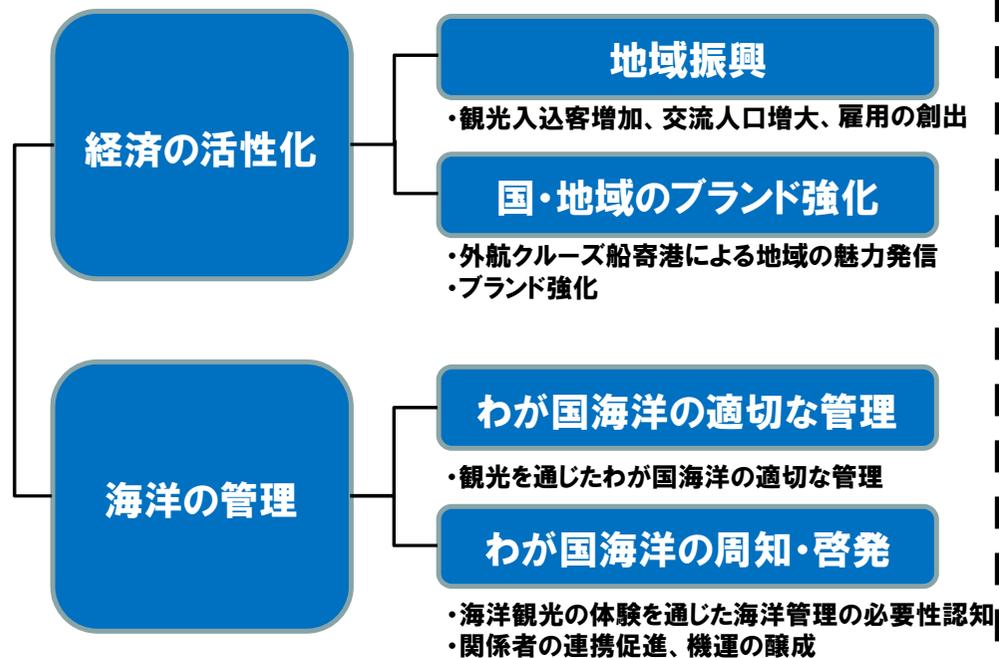
平成26年2月24日

1. 海洋観光の意義の見直しについて

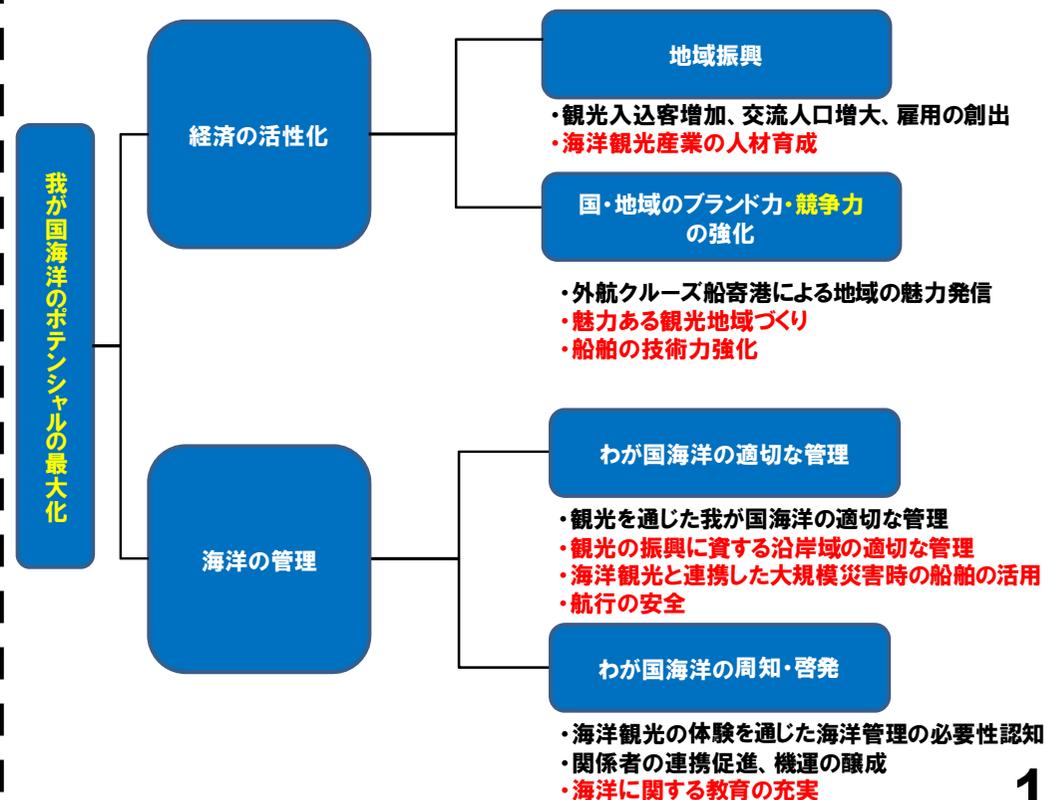
- ・ 海洋観光を、『海洋に関わる観光資源及び自然状況並びに海上交通を利用、活用する観光』と捉える。
- ・ 海洋観光の意義について、第1回検討会で各委員よりいただいた意見を基に、修正を行った。
- ・ 「経済の活性化」、「海洋の管理」という2つの軸にそれぞれ2本の柱を立てる構成は変えず、それぞれの柱に含まれる「意義」の内容について修正を加えた。

第1回検討会において提示した体系(案)

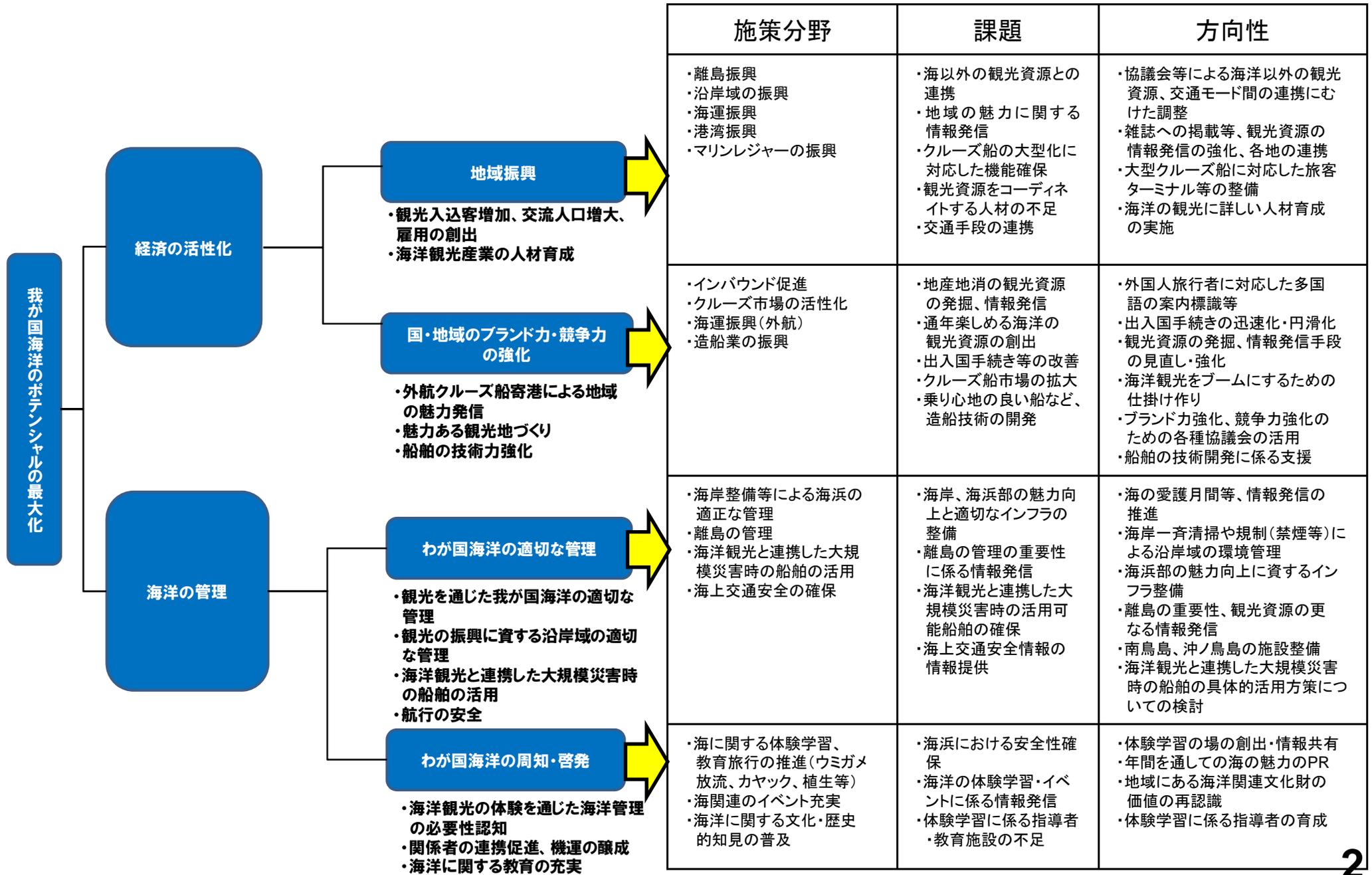
【 海 洋 観 光 の 意 義 】



本検討会において提示する体系(案)



2. 海洋観光の施策推進に係る課題と方向性



3. 地域別の、海洋観光推進に係る課題と方向性

- ・ 海洋観光の振興に当たっては、地域の特性毎に、直面する課題とそれら課題への対応方針が異なるものと考えられる。
- ・ 前回の検討会において、各施策を連携させることで地域の魅力を発信することの重要性が指摘されたところ、我が国の沿岸部について、大都市近郊地(クルーズ船寄港地)、大都市から距離のある沿岸地域、離島地域の3分類に分け、それぞれの特徴について整理を試みた。
- ・ また、「分野横断的な課題」として、「海洋の教育・啓発、海離れの克服」と、「海洋観光に関する情報発信」の2点について整理を行った。

地域別課題：大都市近郊地域・クルーズ船寄港地

課題	取組の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ○港湾施設、船着き場はあっても、送迎バスを止める場所が無い ○クルーズ船の大型化に対応した機能確保 ○クルーズ船寄港時の出入国手続きの改善 ○クルーズ船は寄港しても、船で宿泊するケースがほとんどであり、寄港地においてどのようにお金を使ってもらうか ○クルーズ船寄港誘致のための取組の推進 ○他の交通モードとの連携 ○海洋以外の地域観光資源との連携 ○湾内クルーズ等、船と活用した観光のPR ○観光資源をコーディネートする人材の不足 ○プレジャーボートの浸透不足 	<ul style="list-style-type: none"> ○大型クルーズ船に対応した旅客ターミナル等の整備 ○出入国手続きの迅速化・円滑化 ○オリジナリティーのある、クルーズ船お出迎えの実施 ○クルーズ船が寄港した際にPRすべき地域資源の磨き上げ、情報発信の強化、寄港地間の連携 ○内陸部観光資源、離島との連携による寄港地の魅力向上 ○協議会等を通じた観光地へのアクセス改善 ○海洋の観光に詳しい人材育成の実施 ○プレジャーボートによる観光の啓発

3. 地域別の、海洋観光推進に係る課題と方向性

地域別課題：大都市から距離のある沿岸地域

課題	取組の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ○海岸、海浜部の魅力向上と適切なインフラの整備 ○プレジャーボートの浸透不足 ○通年楽しめる海洋の観光資源の創出 ○海洋以外の地域観光資源との連携 ○地域の魅力に関する情報発信が弱い ○海洋の体験学習・イベントに係る情報発信 ○湾内クルーズ等、船を活用した観光のPR 	<ul style="list-style-type: none"> ○海浜部、ビーチの魅力向上に資するインフラ・施設整備 ○プレジャーボートによる観光の啓発 ○観光資源の発掘、情報発信手段の見直し・強化 ○内陸部観光資源、離島との連携による観光PR ○雑誌への掲載等、観光資源の情報発信の強化 ○海洋観光をブームにするための仕掛け作り ○体験学習の場の創出・情報共有

地域別課題：離島地域

課題	取組の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ○本土側で船着き場までのアクセスが悪い(または分からない) ○離島内での移動手段 ○離島に行く動機(釣り、ダイビング等)が低い ○災害時の輸送やテストクルーズ等には、定期船がドックで点検を受ける際の代替船として用意する予備船があることが前提となるが、事業環境が厳しく、予備船を保有するゆとりがない。 ○離島の管理の重要性に係る情報発信不足 ○乗り心地の良い船など、造船技術の開発 	<ul style="list-style-type: none"> ○離島への定期航路の確保・利便性向上 ○地域資源の磨き上げ、ブランド強化 ○離島に連泊できるだけの滞在観光メニューの充実 ○予備船を活用するための観光メニューの創出 ○離島の重要性、観光資源に係る更なる情報発信 ○船舶の新たな技術開発のための取組推進

4. 分野横断的な課題と取組の方向性

分野横断的課題：海洋の教育・啓発、海離れの克服

課題	取組の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ○若い世代が船に乗る経験が失われている ○若い世代が海洋の観光に関する体験、教育を十分に受けていない ○海洋の観光が新たな体験、今までに無い魅力を提供できるかどうか ○海洋の教育に係る教育人材の不足 ○海浜における安全性確保 ○海岸、海浜部の魅力向上と適切なインフラの整備 	<ul style="list-style-type: none"> ○親子での、または学校での海洋に関する教育の充実 ○海洋の体験学習の場の創出、情報共有 ○海洋観光における秘境的ツアー等、新たな海洋観光メニューの開発 ○国内におけるクルーズ船市場の拡大に向けた取組推進 ○「みなとオアシス」における住民参加による地域活性化の取組推進 ○海洋の観光に詳しい人材育成の実施 ○安全確保に資する海浜・海岸の施設整備の推進 ○海浜部、ビーチの魅力向上に資するインフラ・施設整備

分野横断的課題：海洋観光に関する情報発信

課題	取組の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ○地域の魅力に関する情報発信が弱い ○離島の管理の重要性に係る情報発信不足 ○通年楽しめる海洋の観光資源の創出 ○海洋観光をブームにするための仕掛け作り 	<ul style="list-style-type: none"> ○クルーズ船寄港地における地産地消の観光資源の発掘・情報発信 ○離島の重要性、観光資源に係る更なる情報発信 ○雑誌への掲載等、観光資源の情報発信の強化 ○観光資源の発掘、情報発信手段の見直し・強化 ○世界海の日のパラレルイベント(2015年日本開催予定)の活用 (2015年を我が国にとって海洋観光年と位置付ける等)